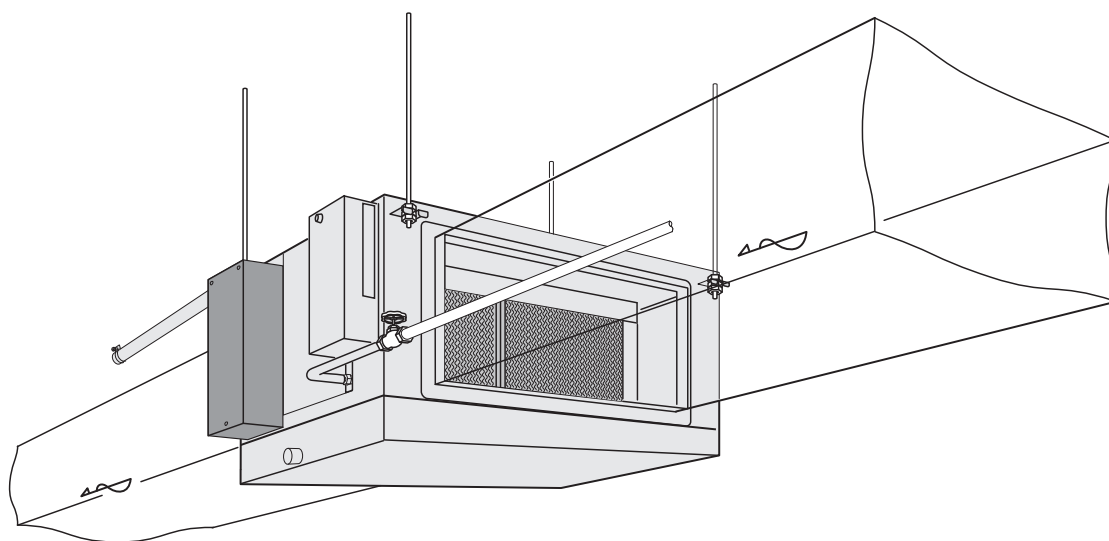


**施工要領書**  
**取扱説明書**

滴下浸透気化式加湿器 / VSBタイプ オプション品

**ドレン排水用ポンプ****WM-DUMタイプ【対応加湿器：VSBタイプ】**

このたびはウエットマスター滴下浸透気化式加湿器専用ドレン排水用ポンプをご採用いただき、まことにありがとうございます。

**施工者の方へ**

- 加湿器の機能を十分に発揮させ、安全にご使用いただくためには、適切な取付工事が必要です。施工にあたっては必ず本書をお読みいただき、本書の内容に従って施工してください。
- 本書を含めて製品添付の説明書類は、必ずお客様にお渡しして、保管いただくように依頼してください。

**加湿器をご使用になるお客様へ**

- ご使用前には、必ず本書をよくお読みください。また本書は、製品添付の他の説明書類とともにお客様にて必ず保管してください。



# 目次

■安全上のご注意	P.1
1 仕様	P.2
1-1 仕様	P.2
1-2 梱包内容 (付属品)	P.2
2 ドレン排水用ポンプの構造	P.3
3 施工	P.4 ~ 7
3-1 加湿器本体への取付	P.4
3-1-1 加湿器本体の加湿モジュール点検口 (パネル) の取り外し	P.4
3-1-2 ドレン排水用ポンプの取付	P.4
3-1-3 DUM 信号線の接続	P.5
3-1-4 周囲スペースの確保	P.5
3-2 排水配管	P.6
3-3 電気配線	P.6
3-4 試運転	P.7
4 運転管理	P.7
5 一般保守要領	P.8 ~ 9
5-1 作業のまえに	P.8
5-2 一般保守項目と作業要領	P.8
5-3 部品交換周期表	P.9
6 故障の原因と処置	P.10
6-1 故障と思われる前に	P.10
6-2 故障のチェックと処置	P.10
6-3 故障時の作業が終わったら	P.10
6-4 保証期間	P.10
7 各種図面	P.11 ~ 13
7-1 WM-VSB600L/H ドレン排水用ポンプ付 本体外形図	P.11
7-2 WM-VSB1200L/H ~ 3200L/H ドレン排水用ポンプ付 本体外形図	P.12
7-3 ドレン排水用ポンプ付 電気回路図	P.13

## 安全上のご注意

取付および取扱は、本書をよくお読みのうえ、本書の内容に従って確実に行ってください。

ここに示した注意事項は「⚠ 警告」・「⚠ 注意」に区分していますが、誤った取付や取扱をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを、特に「⚠ 警告」の欄にまとめて記載しています。また「⚠ 注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

取付工事完了後は、試運転を行って異常がないことを確認してください。また、本書を含めて製品添付の説明書類は、必ずお客様にお渡しして、保管いただくように依頼してください。

### ⚠ 警告

- 本製品は、専門業者の管理のもとにご使用ください。
- 取付は、専門業者に依頼してください。取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
- 取付工事は製品添付の説明書類に従って確実に行ってください。取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
- 取付は、重さに十分耐える所に確実に行ってください。強度不足や取付工事に不備があると、落下や転倒等による事故の原因になります。
- 製品の大きさ、重さに注意してください。取付には製品を支持する揚重機等を使用し、作業者の危険を防止するための措置を講じてください。
- 高さが2メートル以上の箇所で作業を行うときは、適正な足場を確保し安全带を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。
- 作業時は、けが防止のため保護手袋を着用してください。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電気回路の容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。
- 電気配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
- 工事の部材は付属品および指定の部材をご使用ください。寸法や材質等の適合しない部材を使用すると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
- 水道法、消防法等に規制される部材の取扱については、専門業者に依頼してください。
- 改造は絶対にしないでください。部品交換を含め、修理は当社または専門業者にご相談ください。修理に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
- 保守点検作業は、当社または専門業者にご相談いただくか、設備機器に関する知識および作業経験のある方が行ってください。保守点検作業に不備があると、水もれや感電、火災等の原因になります。
- 保守点検作業を行うときは、必ず運転を停止して元電源を切ってください。

### ⚠ 注意

- 本製品は、病院空調等、特に清浄度を必要とする空調設備には使用できないことがあります。このような場合は当社までご相談ください。
- 給水の水質は、必ず水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水をご使用ください（上水道の使用を推奨します）。水質が不適当な場合は、室内の空気の汚れの原因になることがあります。
- 配管工事は、製品添付の説明書類に従って確実にを行い、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると、水もれによる事故の原因になります。
- アース接続（D種接地工事）を行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。
- ドレン排水用ポンプの元電源には必ずドレン排水用ポンプ専用の漏電ブレーカを取り付けてください。漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。不適当な容量のヒューズや針金・銅線等を使用すると、故障や火災の原因になることがあります。

# 1 仕様

## 1-1 仕様

- WM-DUM-SB は、滴下浸透気化式加湿器 VSB タイプ専用のドレン排水用ポンプです。VSB 本体内ドレンパンのドレン水を揚水して排水位置を高くし、排水配管の先下がり勾配を確保します。

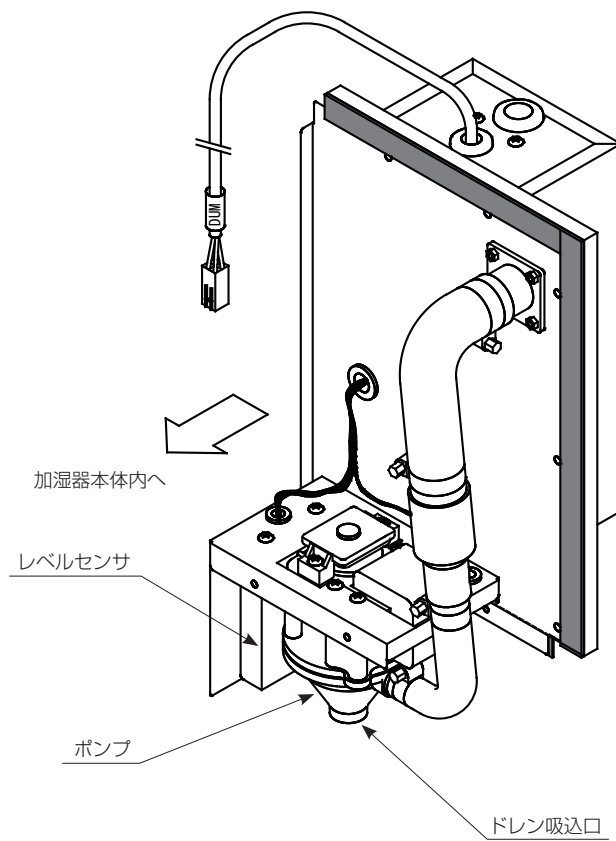
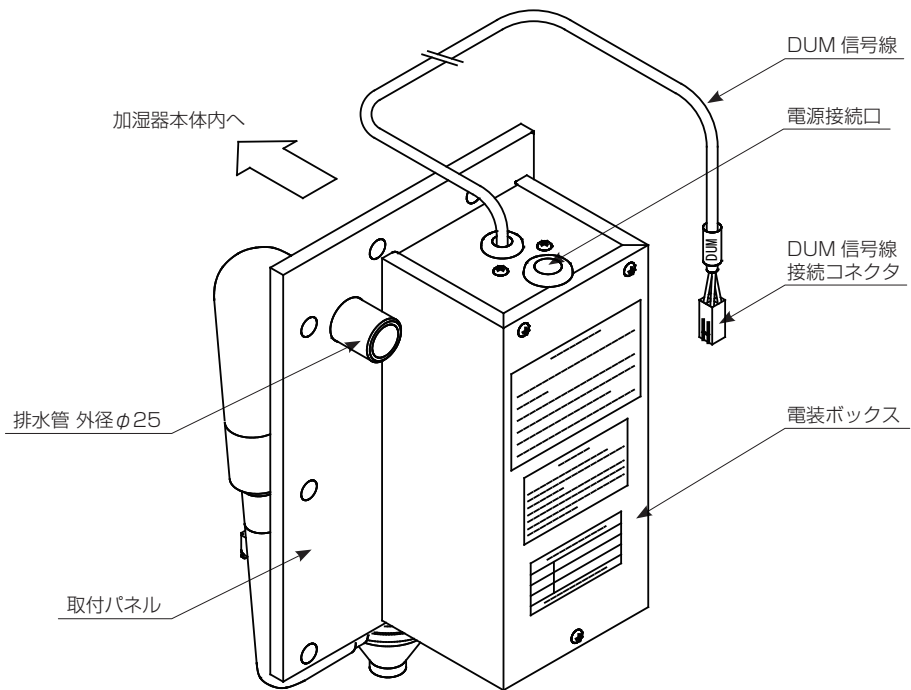
機種・型式	ドレン排水用ポンプ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">DUM</span>	
型番	WM-DUM-SB	WM-DUM-SB2 (VSB3200L/H 専用)
適合加湿器	WM-VSB600L/H、WM-VSB1200L/H、WM-VSB2400L/H	WM-VSB3200L/H
最大排水量	3.2ℓ/min	
定格電源	単相 AC100/200V 兼用 50/60Hz	
定格消費電力	30W	
運転時質量	4.7kg	
運転音	54dB (A) (50/60Hz)	
電気特性	電圧許容範囲	± 10% 以内
	絶縁抵抗	100MΩ以上 (制御回路を除く)
	絶縁耐圧	AC1500V 1分間印加異常なし (制御回路を除く)
使用条件	電装部周囲温湿度	5～40℃ (凍結しないこと)、80%RH 以下
	モータ部周囲温度	5～50℃
	通水温度	加湿器給水温度に準ずる
安全保護装置	1) ドレンパン高水位異常検知による加湿器本体の運転停止 2) 本機への給電停止に伴う加湿器本体の運転停止	
客先ご用意	1) 加湿器本体 (VSB) への取付工事は、客先工事となります。 2) 本機への電気工事は、客先工事となります。 3) 本機からの排水配管 (20A 以上) は、客先工事となります。 4) ドレン排水用ポンプの主電源は加湿器本体と別電源とし、漏電ブレーカを設け常時 ON となるように配線してください。 5) ドレン排水用ポンプの主電源を加湿器本体と同一電源とする場合は、漏電ブレーカを常時 ON としてください。加湿器の運転を長期休止する場合、点検などやむを得ず電源を OFF とする場合には、給水元バルブを閉じるなど万一の場合にも水が流れて漏水事故にならないようにしてください。	
その他	本機は、加湿器本体 (VSB) 内ドレンパンのドレン水の水位をレベルセンサ (電極ピン) により検知して運転・停止します。したがって、純水では使用できません。加湿器への給水は水道法水質基準に準ずる飲料水を使用してください。	

## 1-2 梱包内容 (付属品)

- 開封後は直ちに内容を確認してください。

- 1) ポンプ本体 ..... 1台
- 2) 排水ホース (φ 30 × φ 25 L型、ホースバンド2個付) ..... 1セット
- 3) 加湿器排水栓プラグ (R1/2 SUS) ..... 1ヶ
- 4) 本体取付ビス (トラスM4 × 8 SUS) ..... 一式
- 5) ステッカー (ビス結露防止用) ..... 一式
- 6) コードキーブ (配線固定用) ..... 2ヶ
- 7) 取扱説明書類 ..... 一式

## 2 ドレン排水用ポンプの構造



# 3 施工

## お願い

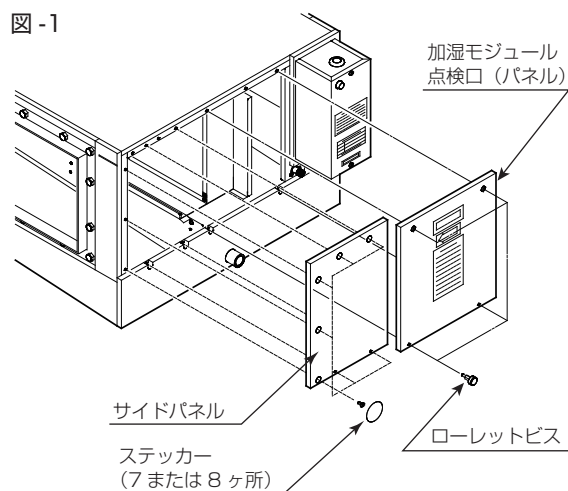
- ドレン排水用ポンプは、加湿器の排水勾配がとれない場合に、ドレン水をポンプにより揚水して排水します。
- ドレン排水用ポンプは加湿器の運転に関係なく、常に電源が供給されるようにご注意ください。
- ドレン排水用ポンプへの給電が停止することが予測される場合は、安全のため加湿器への給水を停止させるためのスプリングリターンバルブなどの取り付けをご配慮ください。

## 3-1 加湿器本体への取付

結露防止のため加湿器本体表面の断熱材の損傷、剥がれなどが生じないようにご注意ください。  
加湿器本体へ異物が混入しないようにご注意ください。

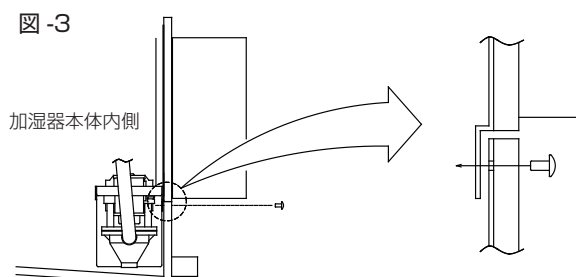
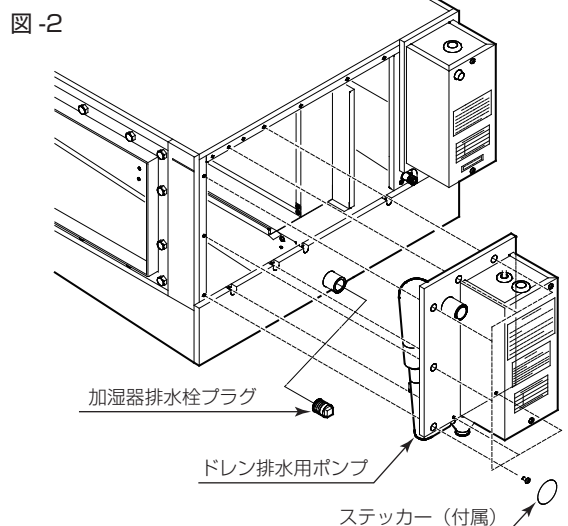
### 3-1-1 加湿器本体の加湿モジュール点検口（パネル）の取り外し

- 加湿器本体の加湿モジュール点検口（パネル）をローレットビス（4ヶ、VSB3200L/Hは6ヶ）と共に外します。ローレットビスは紛失しないように注意してください（図-1）。
- サイドパネルを外します。ビスはステッカーを剥がしてから外してください（7ヶ所、VSB3200L/Hは8ヶ所）。



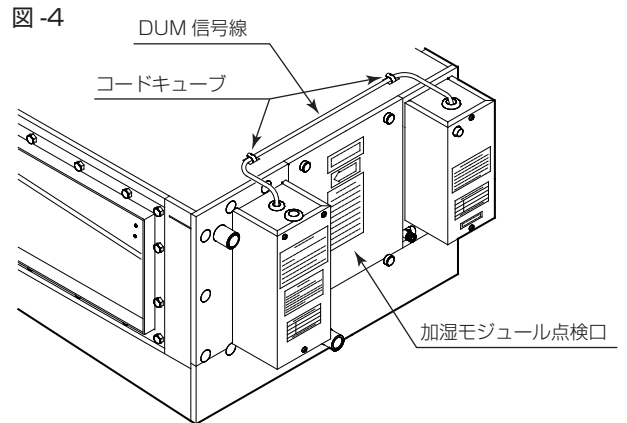
### 3-1-2 ドレン排水用ポンプの取付

- サイドパネルの代わりにドレン排水用ポンプを取り付けます（図-2）。
- 付属のビス（トラス M4 × 8 : 7ヶ、VSB3200L/Hは8ヶ）でドレン排水用ポンプを取り付けます。この時、取付パネル下端部は加湿器内側へ差し込むようにしてください（図-3）。
- ビス締付後、ビス取付部の穴を付属のステッカー（7ヶ所、VSB3200L/Hは8ヶ所）にて塞ぎます。結露防止のために必ず貼付してください。
- 付属の加湿器排水栓プラグ（R1/2）で必ず加湿器本体排水口を塞いでください。
- 加湿器本体排水口を示す「排水」シールは剥がしてください。
- 加湿モジュール点検口（パネル）をローレットビスにて取り付けます。



### 3-1-3 DUM 信号線の接続

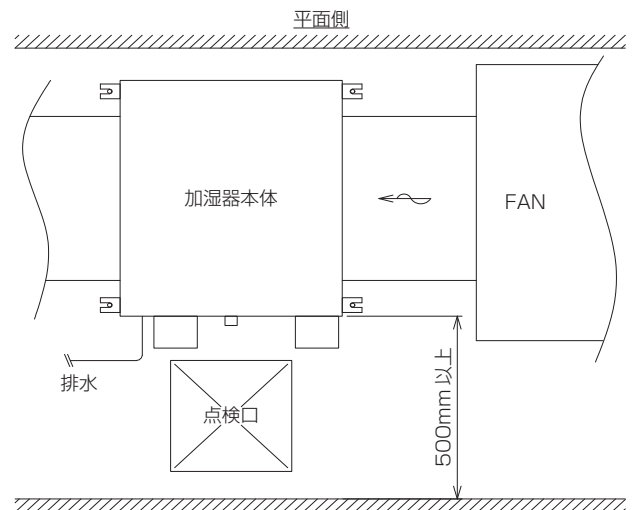
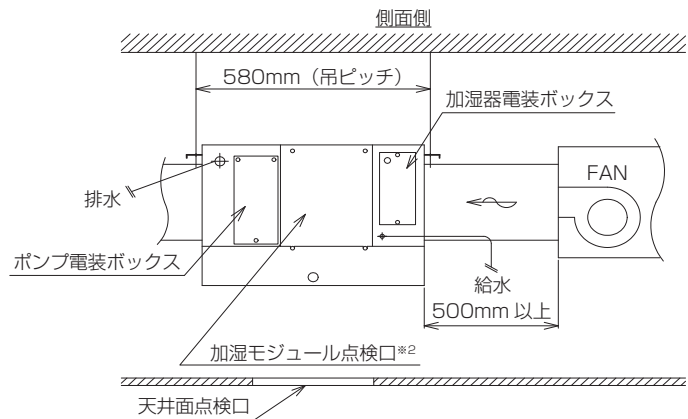
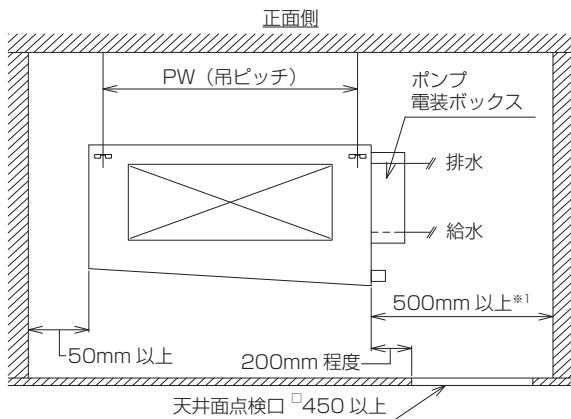
- ドレン排水用ポンプの DUM 信号線を加湿器本体電装ボックス内の DUM コネクタに接続します。接続は、DUM コネクタに差し込んである短絡用コネクタを抜いて、接続します。
- DUM 信号線の取り回しは加湿器モジュール点検口を避けるようにしてください。付属のコードキューブ (2ヶ) を使用してください (図-4)。



### 3-1-4 周囲スペースの確保

- 本体は必ず水平に取り付けてください。
- 加湿器本体周囲に必ず保守点検ができるスペースを確保してください。加湿器本体の必要周囲スペースを確保するほか、ポンプからの排水配管の下り勾配に支障がないようにご注意ください (図-5)。
- 加湿器本体取付位置の天井面 (加湿器本体の配管側) には □450 以上の点検口を設置してください。
- ドレン排水用ポンプ排水管に配管の荷重がかからないようにご注意ください。

図-5



型番	PW
WM-VSB600L/H	330
WM-VSB1200L/H	630
WM-VSB2400L/H	1230
WM-VSB3200L/H	

※ 1 : 加湿モジュールを引き出すために必要です。  
 ※ 2 : 加湿モジュール点検口の前には後々の保守作業のため、給水配管や電気配線、梁などがこないように配慮してください。

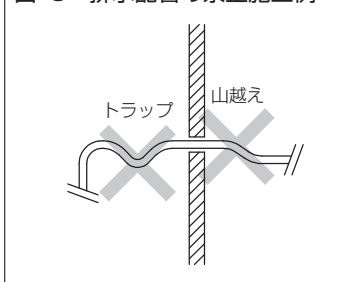
### 3-2 排水配管

#### ⚠ 注意

●配管は必ず保温してください。保温しないと結露による漏水の原因になります。

- ドレン排水用ポンプ排水口からの排水配管は必ず 1/100 以上の先下がり勾配・大気開放とし、排水がスムーズに流れるよう配管してください。
- 排水配管は 20A 以上とし、排水主管までは各加湿器ごとに単独に配管してください。
- 排水配管途中に山越えやトラップを作らないように施工してください（図-6）。排水不良の原因となります。また、配管途中にエア抜きは設けないでください。
- 排水ホースの内径はφ 25 です。ポンプの排水管と客先ご用意の排水配管との間を付属品の排水ホースで接続します。ホースバンドの締付トルクは 1.5N・m 程度としてください。
- 吐出口に排水ホースを接続する際は、排水ホースに有機溶剤（接着剤など）は使用しないでください。吐出口が劣化し、不具合に至るおそれがあります。
- ポンプの排水管および排水ホースに排水配管の荷重がかからないように施工してください。
- 配管に結露が生じないよう、必ず保温してください。
- 排水配管の取り回しは必ず加湿器本体周囲スペースを確保できるようにしてください。
- 加湿器本体の排水口は、ドレン排水用ポンプ付属の加湿器排水栓プラグにて塞いでください。

図-6 排水配管の禁止施工例



### 3-3 電気配線

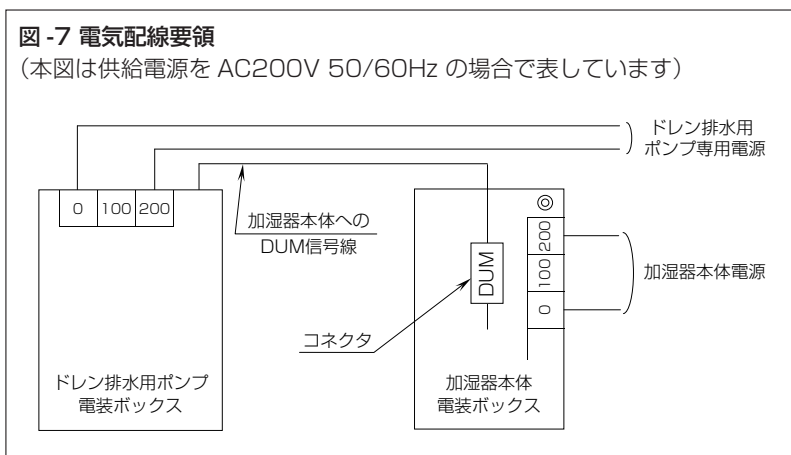
#### ⚠ 警告

●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」に従って施工してください。電気回路の容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。  
●各配線の接続は確実にを行い、接続部にケーブルの外力が加わらないように確実に固定してください。施工不備があると、感電、火災の原因になります。

- 電気配線は客先ご用意となります。ドレン排水用ポンプ電源として加湿器とは別系統の専用回路を使用し、加湿器の運転に関係なく常時 ON となるようにしてください。
- ドレン排水用ポンプの元電源には必ずドレン排水用ポンプ専用の漏電ブレーカを設けてください。漏電事故防止および保守点検作業時の安全のため必要です。
- ドレン排水用ポンプの主電源を加湿器本体と同一電源とする場合においても、ドレン排水用ポンプへの電源は常に供給されるように漏電ブレーカは常時 ON としてください。
- 現場の指示等をよくご確認ください。確実な電気工事をお願いします。配線にあたっては、図-7 および P.13 「7-3 ドレン排水用ポンプ付 電気回路図」を参照してください。
- 加湿器本体への DUM 信号線は必ず接続してください。加湿器本体側電装ボックス内の DUM コネクタには、短絡用コネクタが差し込んであります。短絡用コネクタを抜いてから、DUM 信号線を接続します。接続しないと正常な運転ができません。
- 加湿器の配線は加湿器本体の取扱説明書に従ってください。

図-7 電気配線要領

(本図は供給電源を AC200V 50/60Hz の場合で表しています)



### 3-4 試運転

施工後は、以下の手順で試運転を実施し、不都合な点があれば必ず修正してください。

- 試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。試運転は加湿器本体の試運転と合わせて行ってください（加湿器本体の取扱説明書「試運転」の項目参照）。

- 加湿器排水栓プラグで加湿器本体の排水口が確実に塞がれていること
- 排水ホースはホースバンドで確実に接続され、排水配管は 1/100 以上の先下がり勾配が確保され流れの障害がないこと
- 各電気配線が正しく接続・固定されていること

- ドレン排水用ポンプ元電源の漏電ブレーカを ON にします。
- 加湿器本体の試運転を開始します。
- ドレン排水用ポンプはドレンパン水位が（ドレンパン底より）35～40mm に達すると運転を開始します。ポンプは加湿器の発停に関係なく、ドレンパンの水位を検知して運転します。

## 4 運転管理



### 警告

- 本製品は、専門業者の管理のもとにご使用ください。誤った取扱をした場合には、水もれや感電等の事故の原因になります。



### 注意

- 加湿器のドレンをポンプにより排水しますから、電気点検等による停電によりポンプの運転が停止するときは、必ず事前に加湿器への給水サービス弁を閉めてください。万一、給水用電磁弁が故障（リーク）を生じた場合に、漏水のおそれがあります。

- ドレン排水用ポンプは、ポンプの水槽水位により発停しますので、漏電ブレーカを操作する必要はありません。必ず常時電源を供給してください。  
加湿器の運転を長期休止する場合は、必ず事前に給水バルブを閉じ、ヒューミディスタットの設定を下げるなどして加湿器が運転しないようにしてください。  
また、電気点検など停電によりポンプの運転が停止する場合も、必ず事前に給水サービス弁を閉め、加湿器へ給水されないようにしてください。本ポンプへ給電されない状態で加湿器に給水された場合、万一、給水用電磁弁が故障（リーク）すると、漏水に至るおそれがあります。
- ドレン排水用ポンプの電源が OFF となった場合には、加湿器本体の運転も停止します。
- 運転中は定期的に巡回点検し、配管各部からの水もれの無いこと、その他異常の無いことを確認してください。なお、異常のみられる場合は、加湿器の運転を直ちに停止し、加湿器への給水サービス弁を閉めて P.10 「6 故障の原因と処置」を参照して対処してください。
- ドレン排水用ポンプ本体には、ドレンパン高水位用センサが取り付けられています。ドレンパンの高水位を検知した場合は加湿器本体の電装ボックスにある異常ランプ（赤）を点灯、外部信号（異常）を出力します。この場合、P.10 「6 故障の原因と処置」を参照して対処してください。

## 5 一般保守要領



### 警告

- 高さが2メートル以上の箇所で作業を行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。
- 保守点検作業、部品交換を含む修理は、当社または専門業者にご相談いただくか、設備機器に関する知識および作業経験のある方が行ってください。作業に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
- 保守点検作業を行う前には、本書の内容に従って運転を停止し、必ず元電源を切ってください。通電したまま作業すると、感電等の事故の原因になります。

### 5-1 作業の前に

- ドレン排水用ポンプの機能を維持し正常に運転させるためには、定期的な保守点検作業が必要となります。本書は其中でも、日頃のお手入れとして必要な基本的内容を記載しておりますので、内容をよくお読みのうえ確実に作業を行ってください。
- 当社では、機器の維持管理に便利な**定期点検契約**を設けております。加湿器の定期点検から部品交換まで、専従スタッフによる万全のアフターサービスをご提供いたします。ぜひご利用ください。

### 5-2 一般保守項目と作業要領

加湿器本体の取扱説明書「一般保守項目」に記載の保守点検作業とあわせて下記作業を行ってください。

作業項目	ドレン排水用ポンプの水槽内、レベルセンサ、電装部の点検
作業時期	シーズンイン時または加湿器本体のドレンパン掃除の時（汚れの状況により周期を早める）

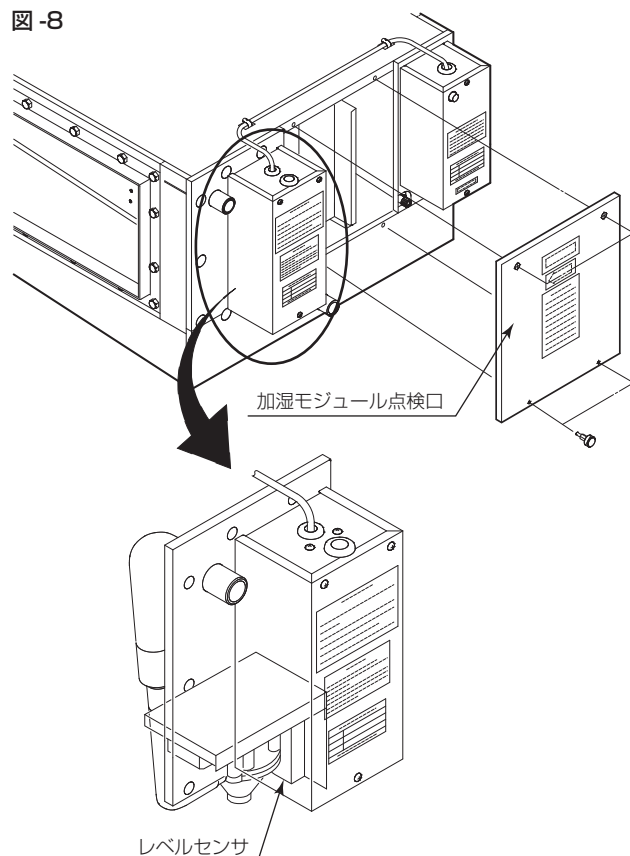
- 1) 加湿器本体の加湿モジュール点検口（パネル）をローレットビス（4ヶ、VSB3200L/Hは6ヶ）と共に外します。

●ローレットビスは紛失しないようにご注意ください。

- 2) 加湿モジュール点検口から水槽内とドレン排水用ポンプのレベルセンサを点検し、ゴミなどがあれば取り除いてください。
- 3) 元通り、加湿器本体へ加湿モジュール点検口を取り付けます。
- 4) 各電気配線が正しく接続・固定されていることを点検し、不都合な点があれば必ず修正してください。

**お願い** 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則」（略称：建築物衛生法、2003年4月施行）では、加湿装置は使用開始時および使用期間中の1ヵ月以内ごとに1回の定期点検（必要に応じて清掃）、排水受け（ドレン受け等）を備えるものは同じく1ヵ月以内ごとに1回の定期点検（必要に応じて清掃）、1年に1回の定期的な清掃を求めています。準拠した対応をお願いします。

図-8



### 5-3 部品交換周期表

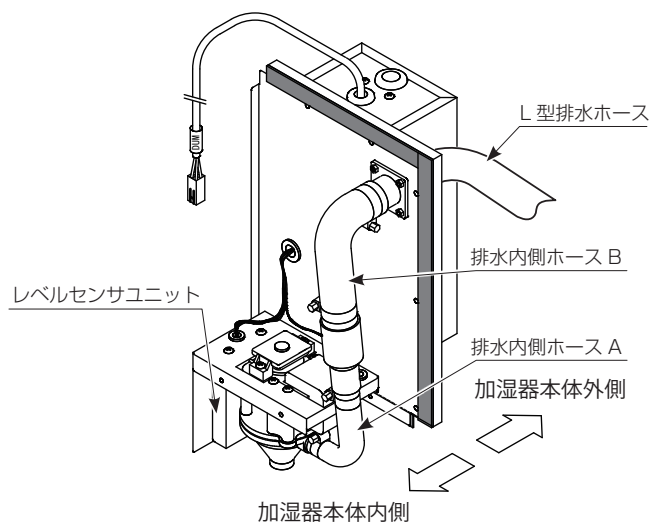
●下表はドレン排水用ポンプの安全かつ効率のよい運転、不具合の未然防止と機器機能を維持するために必要な保守点検周期および部品交換周期を表します。

●ドレン排水用ポンプはさまざまな部品によって構成され、これらの部品は使用経過に伴い徐々に劣化します。

●下表は予防保全の観点から一般空調\*の条件下で部品交換周期をまとめたものです。突発的な故障の防止や保全費の平準化が図れるなどのメリットがありますので、定期的な部品交換をおすすめします。

※一般空調の1年間の運転時間の目安は

1,000時間(8時間/日×25日/月×5ヶ月/年)です。



No.	部品名称	加湿器使用開始後の経過年										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1	L型排水ホース						●					
2	排水内側ホース A						●					
3	排水内側ホース B						●					
4	レベルセンサユニット	水質、空気条件によっては劣化時に都度交換										

【例】 上表No.1のL型排水ホースを例にとると、5年の使用(6年目)での交換を表します。経年的な劣化も合わせた交換周期としていますのでご理解ください。また、すべての部品を含む製品寿命は10年です。10年経過後はドレン排水用ポンプ本体の交換をご検討ください。

## 6 故障の原因と処置



### 警告

- 部品交換を含め、修理は当社または専門業者にご相談ください。修理に不備があると、水もれや感電、火災等の原因になります。
- 改造は絶対にしないでください。改造すると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。


### 6-1 故障と思われる前に

- 正常な動作を行わない場合でも、必ずしも故障が発生しているとは限りません。故障のチェックを行う前に、まず下記の諸点をチェックしてください。

- ドレン排水用ポンプへの電源が供給されていること
- 加湿器本体が正常に運転していること
- ドレンパンの水位が運転水位に達していること（運転水位高さはドレンパン底より約 35 ~ 40mm）



- 上記に異常がない場合には、下記「6-2 故障のチェックと処置」を参照してチェックおよび処置を行ってください。

### 6-2 故障のチェックと処置

- 下記一覧表を参照して、故障のチェックと処置を行ってください。
- 表内で  印の原因に該当する場合には、当社宛お問い合わせください（サービスコール）。

#### 【故障のチェックと処置 / 一覧表】

※ポンプへ電源が供給されていない場合には加湿器本体の運転も停止します。

状態	故障原因	処置
①運転しない	※ 正しい電源が供給されていない	確認し修正する
	※ 漏電ブレーカが OFF	ON にする
	ドレンパンの水位が運転水位に達していない	——
②加湿器が長期停止しているのにポンプは停止しない	加湿器の給水用電磁弁不良により給水が停止しない	給水サービス弁を閉め、  サービスコール
③異常ランプ点灯 (ドレンパン高水位検知)	下記「④漏水」項目を参照 ●異常ランプが点灯して運転を停止している場合には原因を調べて処置した上で、ドレンパン排水用ポンプ⇒加湿器本体の順に漏電ブレーカを一度 OFF にしてリセットします。	
④漏水	排水配管の施工不良	確認し修正する
	ドレン排水用ポンプの電源が加湿器と同一電源で、漏電ブレーカが OFF、または停電により電源が供給されていない状態で、加湿器の給水用電磁弁不良により給水が停止しない	給水サービス弁を閉め、  サービスコール

### 6-3 故障時の作業が終わったら

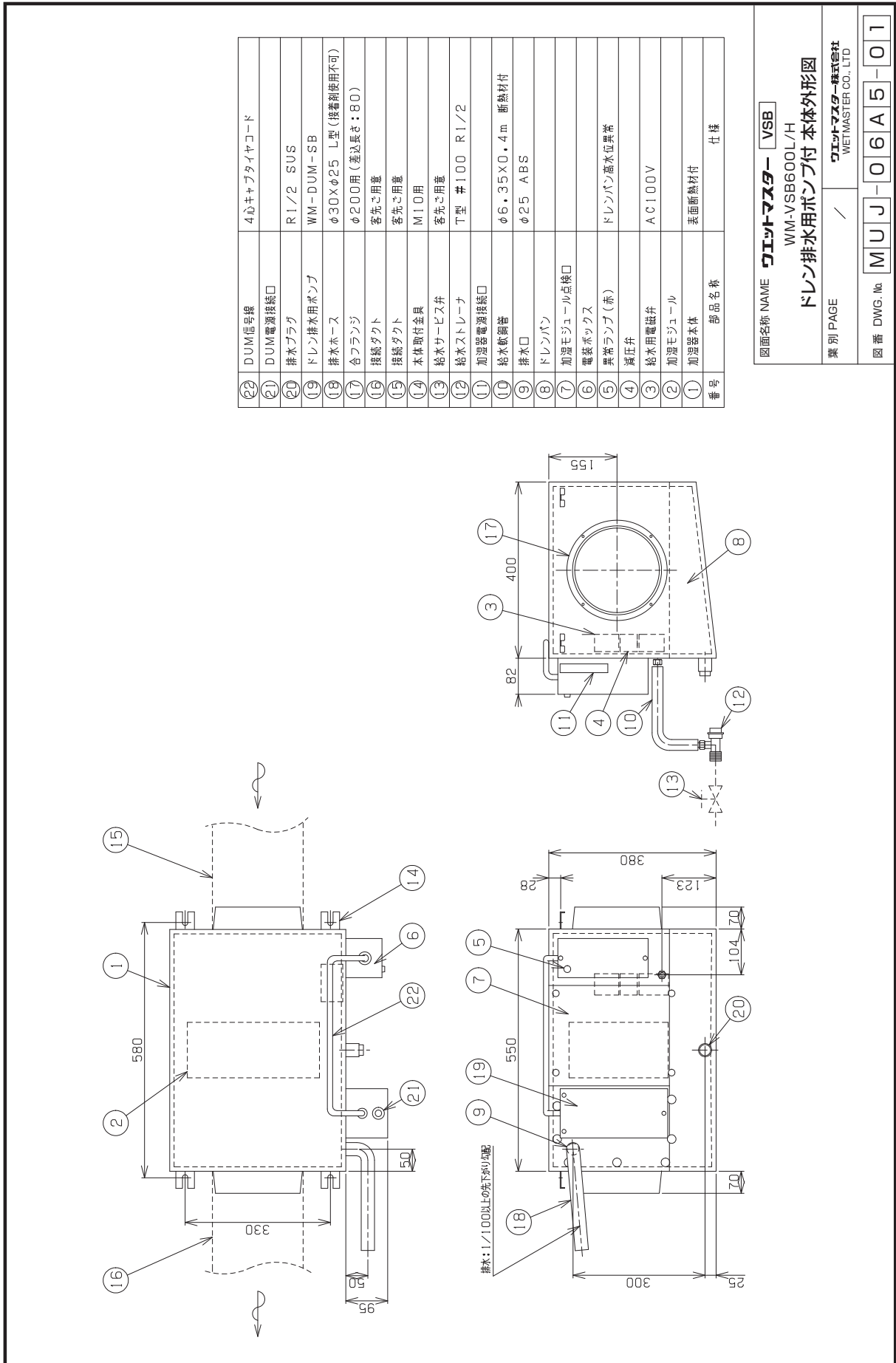
- 故障のチェックとその処置が終わったら必ず運転確認を行い、正常な動作および配管各部からの水もれのないことを確認してください。
- 不都合な点があれば必ず修正し、なおも正常な動作を行わない場合は当社宛お問い合わせください。

### 6-4 保証期間

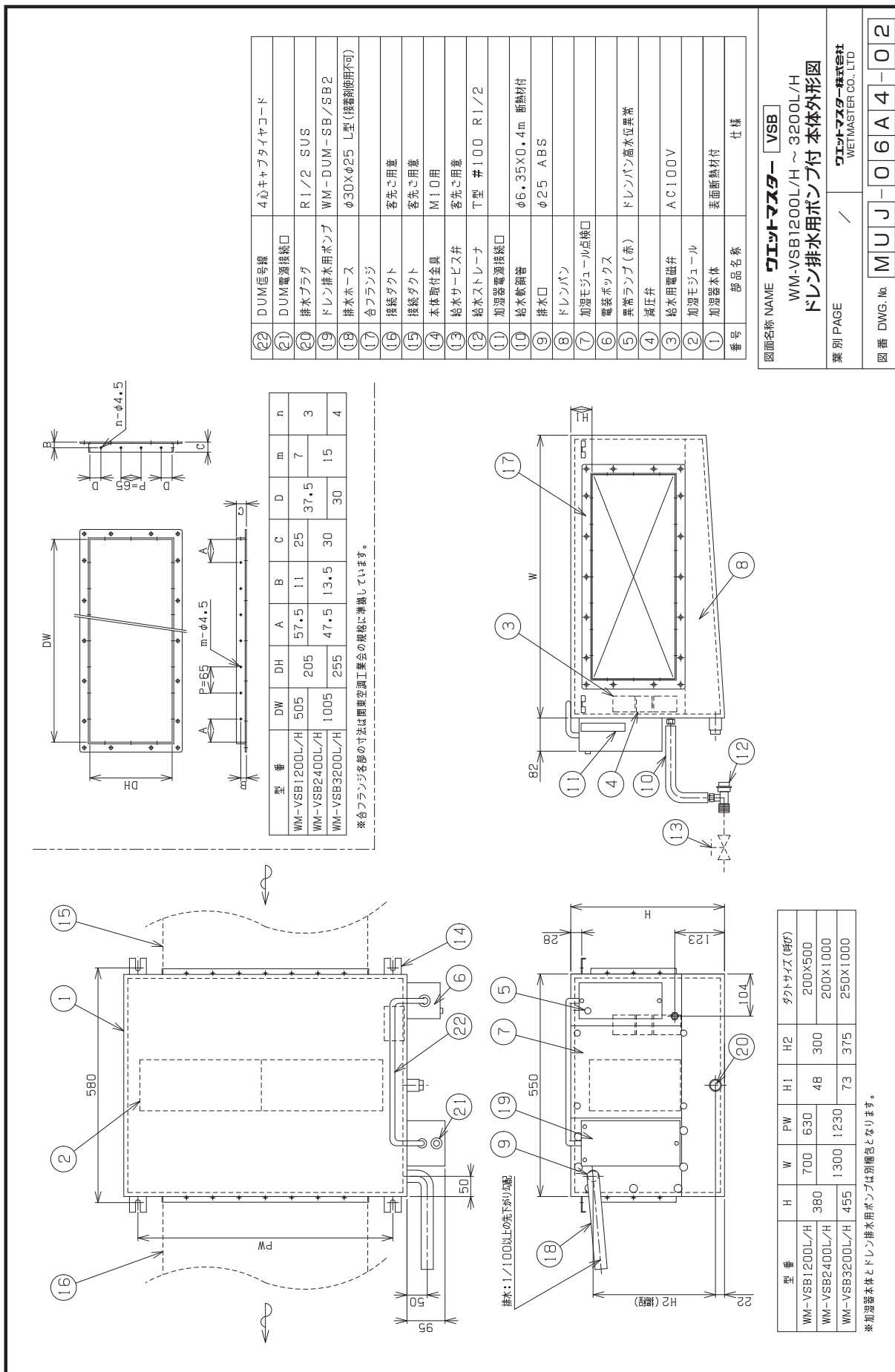
- 当製品の保証期間は、製品出荷年の翌年末までです。取扱説明書および本体貼付ラベル等の要領に従った、正常な使用状態で故障した場合には無料修理いたします。
- 保証期間内においても、使用条件外でのご使用による故障、選定および取付の不良による故障、改造による故障、特殊用途でのご使用による故障などにつきましては、有料修理となります。また、取扱説明書に交換周期の明示されている部品の交換、作業時期の明示されている保守点検作業につきましては、保証期間内においても有料となる場合があります。

# 7 各種図面

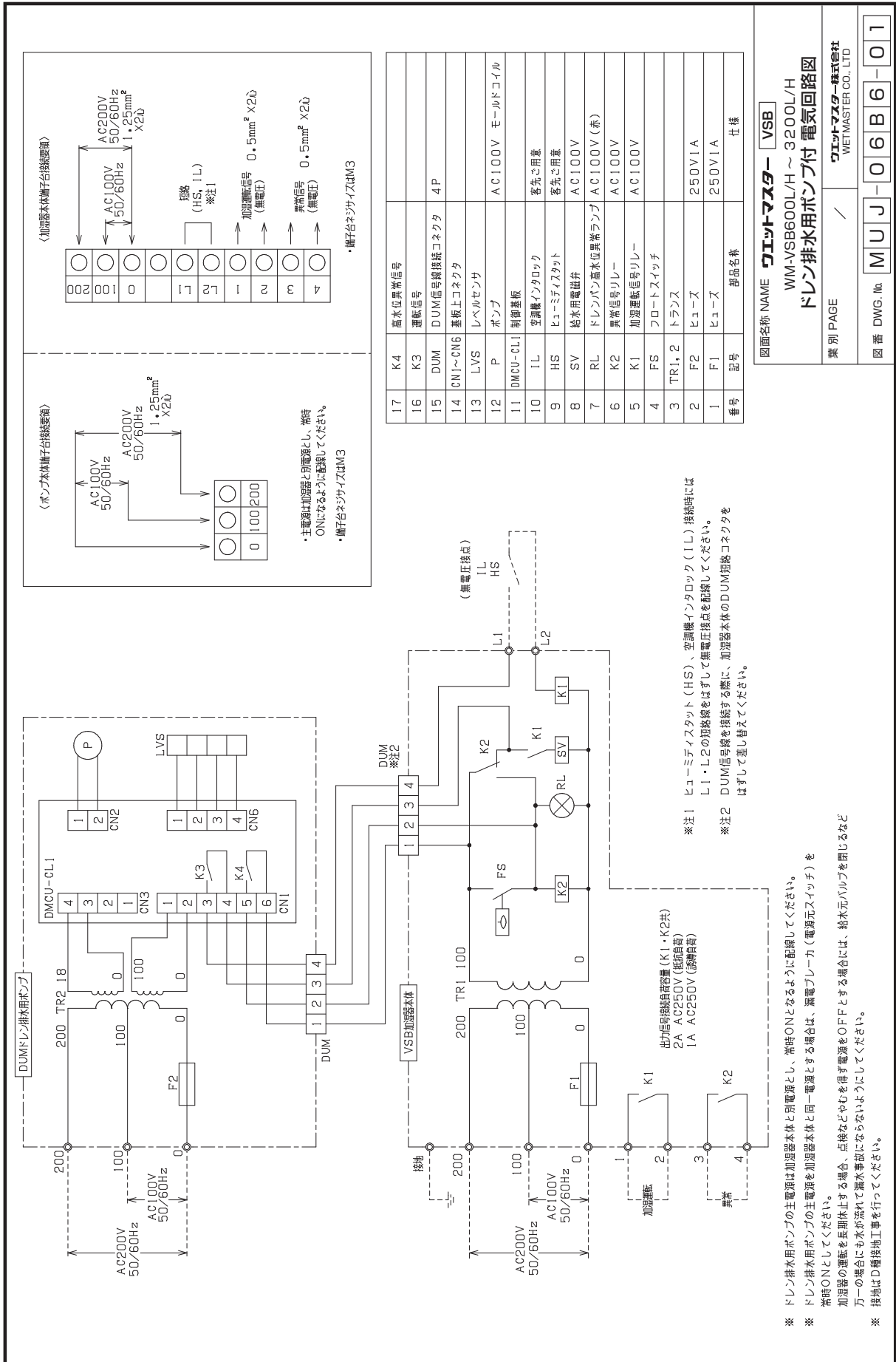
## 7-1 WM-VSB600L/H ドレン排水用ポンプ付 本体外形図



# 7-2 WM-VSB1200L/H ~ 3200L/Hドレン排水用ポンプ付 本体外形図



# 7-3 ドレン排水用ポンプ付 電気回路図



# ウエットマスター株式会社

本社営業本部 〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15 WM本社ビル TEL.03-3954-1101

●加湿器のメンテナンス、リニューアルに関するお問い合わせは、最寄りの各拠点へご連絡ください。

保守・サービス営業本部 〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15 カスタマーセンター TEL.03-3954-1110

大 阪 支 店 〒540-0024 大阪市中央区南新町1-1-2 タイムスビル TEL.06-4790-6606

名古屋営業所 〒464-0858 名古屋市千種区千種 1-15-1 ルミナスセンタービル TEL.052-745-3277

仙 台 営 業 所 〒981-3133 仙台市泉区泉中央 3-27-7 TEL.022-772-8121

福 岡 営 業 所 〒812-0004 福岡市博多区榎田 2-1-10 TEL.092-471-0371

- 業務用・産業用各種加湿器
- 流量管理システム機器／エアロQシステム・カラムアイ

<https://www.wetmaster.co.jp>